411-16

鎌田文部大臣推薦
赤司文部次官推薦
山崎普通學務局長推薦

結城素明著

新撰学花

大正
12.5.11
内交

發兌元
東京
巧藝社

始

従來花卉に關する圖錄の類で、刊行されたものは少くないか、廣く材料を集めたものは、概ね簡に過ぎて要を逸し、外觀の美なるものは、丹青墨色に專らであつて、實物を相去ること遠く、寫生を主とするものは、美において缺くるところがあり、今日まで遂に恰好の良著を得ることの出來なかつた事は、世人と共に深く遺憾とするところであつた。

然るに、今回結城素明畫伯の苦心によつて、玆に『新撰草花』の刊行を見、ついて見るに、本土に產する各種の花卉を採錄し、その描出の手法も、飽くまで純日本畫の特色を發揮すると同時に、最近歐米畫界の新潮に鑑みて、專ら線畫きにより、些の陰翳濃淡を用ひずして、而も眞と美とを併せ得た手腕は敬服の外はない。

想ふに本書の如きは、獨り圖畫科敎授の好參考たるばかりではなく、繪畫彫刻圖案刺繡等を學ぶ人々にとつても、無二の好資料たるべきを信じ、廣く世に推奬する次第である。

大正十二年四月　　　文部大臣　鎌田榮吉識

このごろ畏友結城素明畫伯、その苦心の餘に成れる「新撰草花」の稿本を齎し、予に序を求めらる。就て見るに、本土に產する花卉の類六十三種を撰び、綿密巧緻の筆を以て、入念に描き出したばかりではなく、專ら線により、陰翳を用ひずして、生態を躍動せしめた手法の老練は、敬嘆に堪へざるところである。

聞くところによれば、畫伯は、幾春秋にわたつて、或は那須野の露に坐し、或は富士の山腹に踞して、自然の天地に自然の生命を具現する是等花卉の生態を如實に寫生されたさうであるが、這般の消息は、脈々として紙上に躍つて居ることを感ぜずには居られないのである。

凡そ自然物の生態を具現するに當つて、最も大切なことは、其眞をつかむことである。これ今日圖畫科の敎育において、正しく畫くの能を得しめ兼ねて美感を養ふを以て要旨する所以である。思ふにこの書の如きは、世の圖畫科敎授に從ふものは勿論、苟も美術工藝にたづさはる人々にとつて、絕好の參考資料たるべきを信ずる。

玆に畫伯の勞を多とすると同時に、この方面の開拓に一層の力を致されんことを望み、一言以て本書に序する次第である。

大正十二年四月

文部次官　赤司鷹一郎識

近來、教育上の諸主義の中に、藝術教育の必要が力説さるゝことは、一面文化主義の高調と共に、現代人の生活要素として、如何に美育が重要な使命を有するかを物語るものであつて、この秋に當つて斯道の大家たる結城素明畫伯が、多年苦心の餘に成れる『新撰草花』を公にされたことは、私の喜びに堪へないところである。

畫伯は本邦所產の花卉六十三種を撰び、ひたすら線書きの法を以て、精細に寫生されたばかりではなく、生態の生命をして躍如たらしめた點は、全く敬服の外はないが、更に一言すべきは、濃淡陰翳を用ひざるため、畫面が極めて鮮明であることゝ、印刷もまた精巧を極め、明らかな線を通して、百花が紙上に、高らかな香氣を漂はして居ることである。

私は、この書が、圖畫敎育家、畫家、彫刻家、圖案家、並に刺繡染織等にたづさはる人々を初めとして、一般美術愛好者のために無二の參考資料として、提供されたことを喜び、廣く世に推奬したいと思ふのである。

大正十二年四月

普通學務局長　山崎達之輔識

すゐせん　石蒜科

學名 Narcissus Tazetta, *L.* var. chinensis. *Roem.*

和名 水仙

漢名 水仙　銀臺金盞

本邦暖地の海岸近き原野隴間に自生品ありと雖も、專ら挿花用として栽培せらるゝ多年生草本なり。地下に大なる鱗莖を有す。葉は狹長なる線狀にして、平行脈を有し叢生す。花軸は葉叢の間より抽出し、高さ尺餘、頭上に總苞ありて、數花を繖形花序に排列す。花は十二月より一月に亘りて開く。白色の六花被を有し、黃色盃狀の副冠を具ふ。地下莖は有毒なれども、癰腫を治するの効ありといふ。支那にては唐玄宗帝の頃、紅花の水仙を得て、揚貴妃に與へたりといふ事、開元遺事に見ゆ。又本草啓蒙には、『紅花のもの越後に在りといふ、然れども未だ見ず』の記事あり、往時は紅花の品種ありたるやも圖る可らず。然れども昨今紅花の水仙を切花屋にて見るものは、此花軸を洋紅の溶液の中に挿して、其色素を吸はせたるものなり。

すもも　薔薇科

學名 *Prunus communis, Huds.*

和名 酸桃　うめつさをばな

漢名 李　青皮李　白皮李

支那原產の落葉亞喬木にして、我邦にては專ら子實を採取する爲に栽培せらる。莖高サ丈餘に達し、葉は長卵形又は廣披針形にして、緣邊に鋸齒を有す。花は春日桃と殆んど同時に開き、嫩蕾は淡紅色を點じ、開く時は白色となる。五瓣にして長き花梗を有し、通常三個づゝ集生す。果實は毬形にして、熟すれば紅色を呈すれども、又白皮なるものも有り。漢名其果を嘉慶子と言ひ、佛書には居陵邊の字を充づ、和稱のスモモといふは、酸桃の義にして、其味の稍酸味を帶たるに、形の桃に似たるを以てなり。由來漢土にては此果を賞し、麥李、晚李、季春李、御黃李、均亭季、擘李等の品種を出し。花色にも、青綠紫、黃赤、縹綺、臙脂、青皮紫灰等百品に近きものを出せりと言ふ。

せんりやう　　金粟蘭科

學名 Chloranthus brachystachys, *Bl.*

和名 千兩

漢名 草珊瑚

本邦の暖地に生ずる多年生の常綠草本なれども、莖稍木本狀を呈す。通常叢生して、高サ二三尺に達し、葉は橢圓形にして鋸歯あり、對生す。花は夏日枝頭に花梗を分ちて攢簇す、帶綠黃色の小花なり。花後小毬果を結ぶもの、冬に至りて紅熟し、艶美塗るが如く、年を越えて落ちず。又乳白色の果を結ぶもの有り。新年の床飾として、切花用に栽培せらる。

ひよどりばな

菊科

學名 *Eupatorium japonicum, Thunb.*

和名 鵯花

漢名 山蘭

我邦山野に自生する多年生草本にして、其概形『ふちばかま』に酷似するを以て、多く混同せらる。

莖高さ三四尺、葉は長披針形にして、稍桃の葉に類し、先端尖りて縁邊に鋸歯を有す。『ふちばかま』に比すれば、葉に香氣少く、葉は『ふちばかま』の通常三裂して、稍三出複葉の觀を呈するに反し、全く裂片を有せず、稍上分岐する事少く、又彼に比して、是は莖稍粗糙なるやの感あり。花も彼よりは稍白質なれども、圖に示すが如く、紅紫色のものあれば、其の區別に苦しむ事少しとせず、葉の三裂と否とが、主要なる識別點とさるれども、『ふちはかま』に在りても、稍葉は全く無裂なるを常とすれば、誤りを生ずる事多し。花は筒狀花冠を有し、頭狀花序に排列す。

ひめくわんざう

百合科

學名 Hemerocallis Dumortieri, *Morr.*

和名 姫萱草

漢名 金萱

本邦北部及中部の山地に自生する多年生草本にして、專ら觀賞用として栽培せらる。莖は長さ八九寸、劍狀平行脈葉にして、地下莖より叢生す。四五月の候、葉間より花軸を抽出す、長一尺餘、頭上に濃黃色の花を開く。一花一日にして凋落すれども、他花は日を踵いで開く。

此屬に『野萱草』と稱するは、單瓣にして黃褐色、『八重萱草』と稱するは、重瓣にして濃厚なる赤褐色なり。

ひやくにちさう

菊科

學名 *Zinnia elegans, L.*

和名 百日草　浦島草

墨西哥原産の一年生草本にして、古く我邦に渡來し、園圃に栽培せらる。莖高さ二三尺、卵狀心臟形の葉は莖を挾んで對生す。初夏より十月末に亘り、葉腋より枝を分ち、毎枝梢に一個の美麗なる頭狀花を著く。花色は、紅、白、樺、紫、斑入等にて、ゼブラと言へる品種は、天竺牡丹のポンポン咲の如くにして、黄花に紅斑を點し、特に美麗なり。

此植物の學名は、獨逸ゲッチンゲンの植物學者ジョンプレーゴットジン氏の名譽の爲に、ジンニアと命じたるものなり。英の俗稱をユースエンドエージと言ふ。我邦の花戸は、浦島草を以て通稱とす。

びは　薔薇科

學名 *Eriobotrya japonica, Lindl.*

和名 枇杷

漢名 枇杷

本州西南部四國九州等の暖地に生ずる常綠喬木にして、高さ二丈餘に達す、葉は長大橢圓形にして鋸齒を有し、下面に褐色の毛茸を密生す。花は帶黃白色にして、冬の初めに短縮せる複總狀花序に排列す。佳香ありて頗ぶる幽趣に富む。果實は黃色の漿果にして、味甘酸にして美なり。東京附近に在りては、千葉縣安房郡富浦村及岩井村等にて多く栽培す。支那種を嫁接し、又新種を出して、一顆の重量四五十匁に達するものを產出するに至る。唐枇杷田中枇杷等有名なり。支那にては其葉を無憂扇といひ、其子實を空風珠と稱す。漢藥枇杷葉湯は此葉の蔭乾したるものを煎出したるなり。發汗として用ゐらる。

ひあふき　鳶尾科

學名　*Belamcanda chinensis, Lem.*

和名　檜扇

漢名　射干　烏扇

山野に自生する多年生草本にして、高二三尺に達す。葉は廣き劍狀にして尖り、平行脈を有し、莖を包みて二行に互生排列す、花は帶赤色、帶黃色にして萼無く、花蓋は六片にして、濃き星斑を點す、蒴果は楕圓形にして、熟すれば膨脹開裂し、黑子を露出す。花期は六七月にして、烈々たる日光の下に開く。產地は本邦の外、朝鮮、支那、滿洲、英領印度の北部等なりとす。

本圖に描く處のものは、其矮生種にして、俗に『だるまひあふぎ』と稱せられ、花戶に栽培して、挿花用として市場に出す。花色は黃又は帶赤黃色にして、花被の星點著しからず。

ひつじぐさ

睡蓮科

學名 *Nymphaea tetragona, Georg.* var. *angustata, Casp.*

和名 未草

漢名 睡蓮　芻蓮

本邦中北部各地の池沼に自生する多年生草本にして、根莖は水底を匍匐し、葉を水面に泛ぶ。葉形廣卵形にして全邊、基脚深く缺刻す。夏季直徑一寸乃至三四寸の白花を開き、大小十數片の花瓣と、四個の萼片とより成る。朝開きて午后二時(未刻)より閉づるを以て、『ひつじぐさ』の稱を得たるものか。漢名の睡蓮も、日々早く花を閉づるより、しかく呼びたるものなるべし。今日坊間にて栽培するものは、歐米より輸入されたる園藝品にして、花葉共に大に、花色も紅、黃、白、紫、青、淡紅等多樣なり。熱帶產のものには、夜間に開花するものあり、此種は我邦にては溫室に非ざれば培養し難し。亞弗利加、南米、印度等にも產す。『南京睡蓮』といふは、花葉共に小にして、几上の珍となすべし。

しらん　　蘭科

學名 *Bletilla striata, Rchb. f.*

和名 紫蘭

漢名 白及　朱蘭　紫蘭

本邦及支那に產す。多年生草本にして、專ら觀賞用として栽培せらる。葉は廣披針形にして長く、平行脈を有し、縱に襞皺多し、花は五瓣にして蕚を缺き、四五月頃花莖を抽く尺餘にして、通常四五花を總狀に著く。花色は紅紫色なるを常とすれども、時に白花の變品を見る事あり。地下莖を糊料とすれども、漢方には外用藥として尊ばれたる事あり。甘根連及は其根に附したる別名にして、金光明經の罔達羅喝悉多の語は、此草を指すものなりといふ。

しやくなげ　石南科

學名　*Rhododendron Metternichii, S. et Z.*

漢名　石南

本州各地及北海道の深山喬木帯中に自生する常緑灌木にして、觀賞用として園養又は盆養せらる。莖高さ七八尺より一丈に及ぶ。葉は三四寸より五六寸に及び、長橢圓形革質にして靱なり、表面滑澤なれども、下面は白褐色の毛茸を密生す。晩春より初夏に亘り、淡紅色の花を集生す、十雄蕋にして一雌蕋を具へ、蕾時極めて濃紅なれども、開花すれば色頗ふる淡し。『白花石南』『筑紫石南』は乳白花にして、『黄花石南』は黄白花なり、高山草本帯に生じ、地上に蟠屈蝸附す。普通の石南に比して、培養稍困難なり。明治の末期に舶栽されたる西洋石南、又比馬剌亞石南は、園藝的改良を加へられたるものにして、花に單瓣重瓣あり、色に紅、白、黄、紫等、絢爛の美を極む。

ぎばうし　　百合科

學名　*Hosta japonica*, Aschers. *et* Graebn. var. *coerulea*, Makino.

和名　擬寶珠

漢名　紫蕚

本邦諸州及北支那西比利亞東部等に自生する多年生草本にして、觀賞用として庭園に栽培せらる。葉は卵形全邊平行脈を有し、長柄を以て根生す。花軸は葉叢の中央より抽出し、其上部に於て、數花を總狀に排列す。淡紫色筒狀にして、先端六裂す。其白花なるを漢名白蕚、俗稱白擬寶珠と言ふ。觀賞用とするの外、其若き葉を食用に供する地方あり。此屬に『たうぎばうし』といふは、漢名玉簪花、葉は濃綠色にして、白粉を傅く。又『みづぎばうし』は一に『さじぎばうし』と言ひ、其葉狹長なり。『すぢぎばうし』は、本種の一變種にして、葉に白色、又は帶黃綠色の縱條を有す。

きんかん　芸香科

學名 *Citrus Aurantium, L.*
subsp. nobilis, Makino.
var. *Japonica,* Makino.

和名 金柑　丸味金柑

漢名 金橘　金棗

交趾支那及支那原産の常綠灌木にして、古く我邦に渡來し、觀賞用又は採果用として暖地に栽培せらるゝも、東京附近の氣候に在りても、能く結顆す。莖高さ六七尺。葉は楕圓形又は卵形にして、透明の小點を有し、葉柄の先端に一關節有り、又葉柄の兩側に狹翼を具ふる事あり。花は白色五瓣にして、夏月開花す。果實は毬形、或は倒卵形帶黃色にして指頭大なり、蜜柑の一變種とす。生食用とし、又煮て料理用とせらる。

きんせんくわ　　菊科

學名 *Calendula officinalis, L. var subspatulata, Miq.*

和名 金盞花

漢名 金盞草

南部歐洲原産の二年生草本にして、古く我邦に渡來したるものなり。專ら觀賞用としてのみ栽培せらる。莖高さ尺餘なれども、開花の始めは三四寸なるを以て、春陽の眺矚として、可憐の風致を喜ばる。葉は長橢圓形又は廣披針形にして互生す。花は帶赤黄色にして、頭狀花序に排列し、外圍の花は舌狀花冠、內層の花は筒狀花冠を呈す。果實は小形の乾果にして、畸形に彎曲し、纖細なる刺を具ふ。花期は四月より六月に亘り、白、鮮黄等の變品を見る。

古來千家の茶道に於ては此花を挿花とするを忌む、蓋し流祖利休自刄の時、此花を床に活けたりといふ俗傳に基くものなり。

きく（蜀江錦）　　菊科

學名　Chrisanthemum molifolium, *Ramat.* var. sinense, Makino.

和名　菊

漢名　菊

本圖に示す處のものは、園藝品の中菊の部に屬するものにて、花戸蜀江錦と稱する品種なり。園藝品の中菊の部に屬するものにて、此種は周圍の舌狀花冠盡く內捲し、外部黃色にして、內面は朱紅色なり。此品種を出したるは、甚だ古からずと雖も、甚しく同好者の嗜好に投じ、盛んに栽培せられたるより、終に純正の花形と花色とを紊り、爲に蜀江崩れといふ語を生じ、今日にては中菊に純粹の蜀江錦は甚だ稀なるに至れり。曾て米國より渡來したるダアリアにゲイシヤと稱する品種ありたるが、其花色能く本種に似たる處ありしも、軈てゲイシヤ崩れを生じて、終に甚だ顧りみられざるに至れる事ありき。

由來菊は播種によりて、變化し易き花なる故、優良品を出し得る望みあるも、他面には劣等品を多く簇出する虞ありとす。菊は肥料を吸收同化する力甚だ強く、從つて所謂『こやしまけ』なるものを生ずる事なければ、其栽培に方つては、多量に施肥するの要と、蚜虫の驅除を行ふの必要ある外、甚だ苦心を用ゐざるを以て、何人にも容易に栽培せらる。殊に夏季其芽先を摘みて扦挿する時には、忽ち活着して、其年に花蕾を上すものなれば、園藝趣味を鼓吹するに最も好適せり。

きく　菊科

學名 Chrisanthemum molifolium, *Ramat.*
var. sinense, Makino.

和名 菊

漢名 菊　節華　女華　日精

廣く栽培せらるゝ多年生草本にして、稍木質の莖を有す。葉は卵形にして、缺刻及び鋸齒を有し、葉柄を以て互生す。花期は十一月にして、花は頭狀花序をなし、周圍の花は舌狀花冠、内部のものは筒狀花冠なり。今我邦に於て、盛んに觀賞さるゝ大菊中菊は、元漢土より輸入せられ、我邦に於て、一層發達せられたるものなれども、植物學上の母種としては、我邦にも亦これ有り、即ち四國九州より奄美大島に亙りて野生する『のぢぎく――野路菊』は此原種なりと言ふ。然れども野路菊より今日の大菊に迄發達する間には、多くの年處と變遷とを經、人爲淘汰と彼此交配とを襲ね來りたれば、全く原種の面目を一新し盡して、假令精覈なる檢案上に置くも、容易に斷定するに躊躇すべし。

ききやう　桔梗科

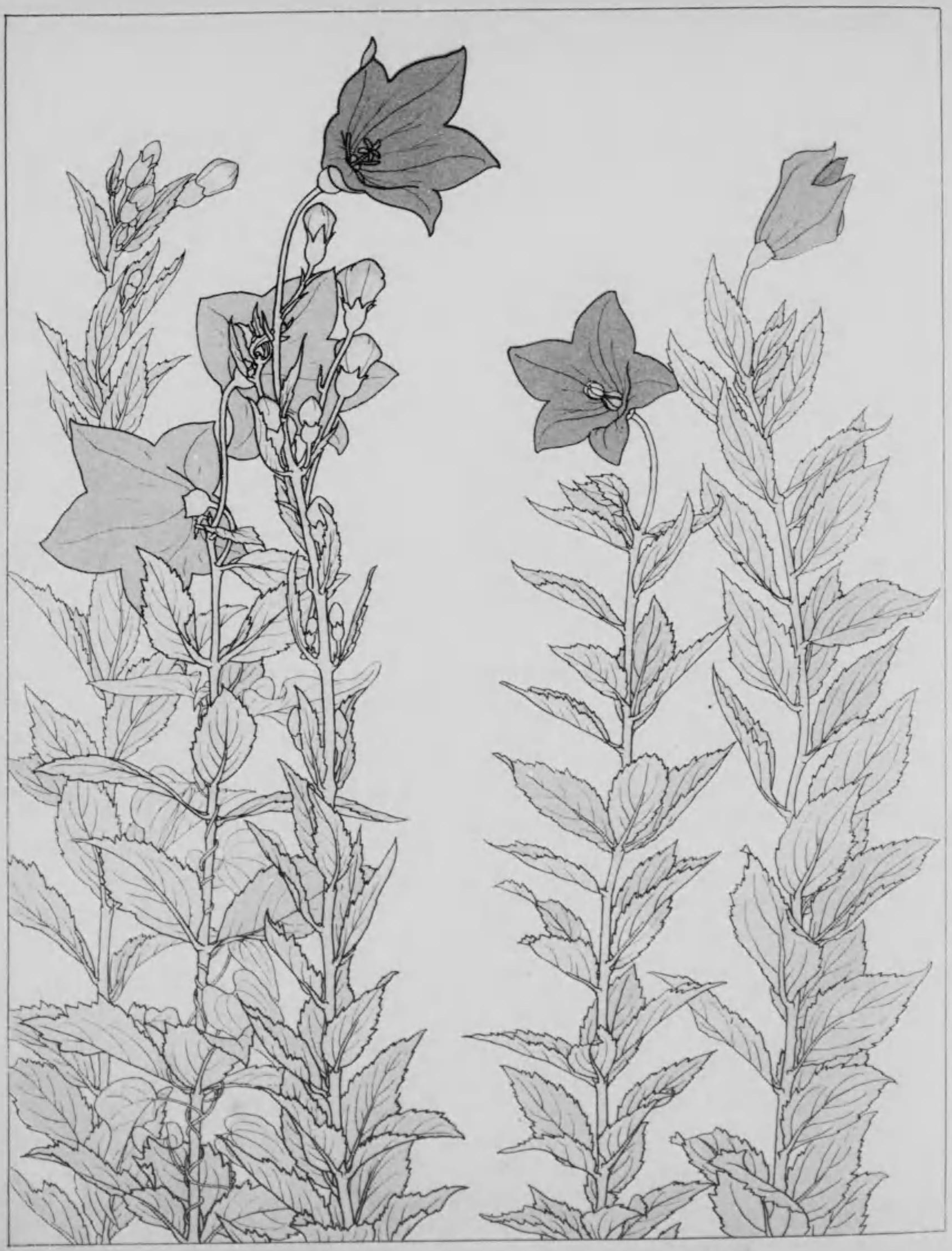
學名 Platycodon grandiflorus, *A. DC.*

和名 桔梗　ありのひふき

漢名 桔梗　白藥

桔梗科の代表植物にして、本邦各地の山野に自生する多年生草本なれども、園地に栽培せらるゝを普通とす。莖は高さ二三尺、葉は披針形又は長橢圓形にて鋸齒を有し、互生す。花は大形にして、莖及枝の頂端に生す。花冠は鍾狀にして五裂し、鮮やかなる青紫色を呈す。園養せられたるものには、白花あり、絞あり、又重瓣の品種を見る。專ら觀賞用なれども、往時は其地下莖を呼吸器病の藥として用ゐたる事あり。秋の七草の歌の『あさがほ』なるものは、桔梗を指せりといふ說あれども、遽かに信を措き難し。

本邦以外、支那、朝鮮、滿洲、西比利亞邊にも多く產す。



さるとりいばら　百合科

學名 Smilax China, *L.*

和名 猿取茨　山歸來

漢名 菝葜

山野に自生する蔓生木質の多年生植物なり。莖は細くして、節每に歪み捻れ、高さ二三尺より五六尺に至り、鋭き木刺を有す。葉は卵形又は橢圓形にして互生し、葉柄の基脚には、托葉の變形せる二本の卷鬚を有し、以て他物に纒絡す。初夏葉腋に花莖を抽き、黃綠色の小花を繖形に綴る。雌雄異株なり。果實は大豆の大さにして、秋末紅熟し、頗ぶる艶美なり。本邦及び朝鮮支那等に產す。根を藥用に供す。

さねかづら

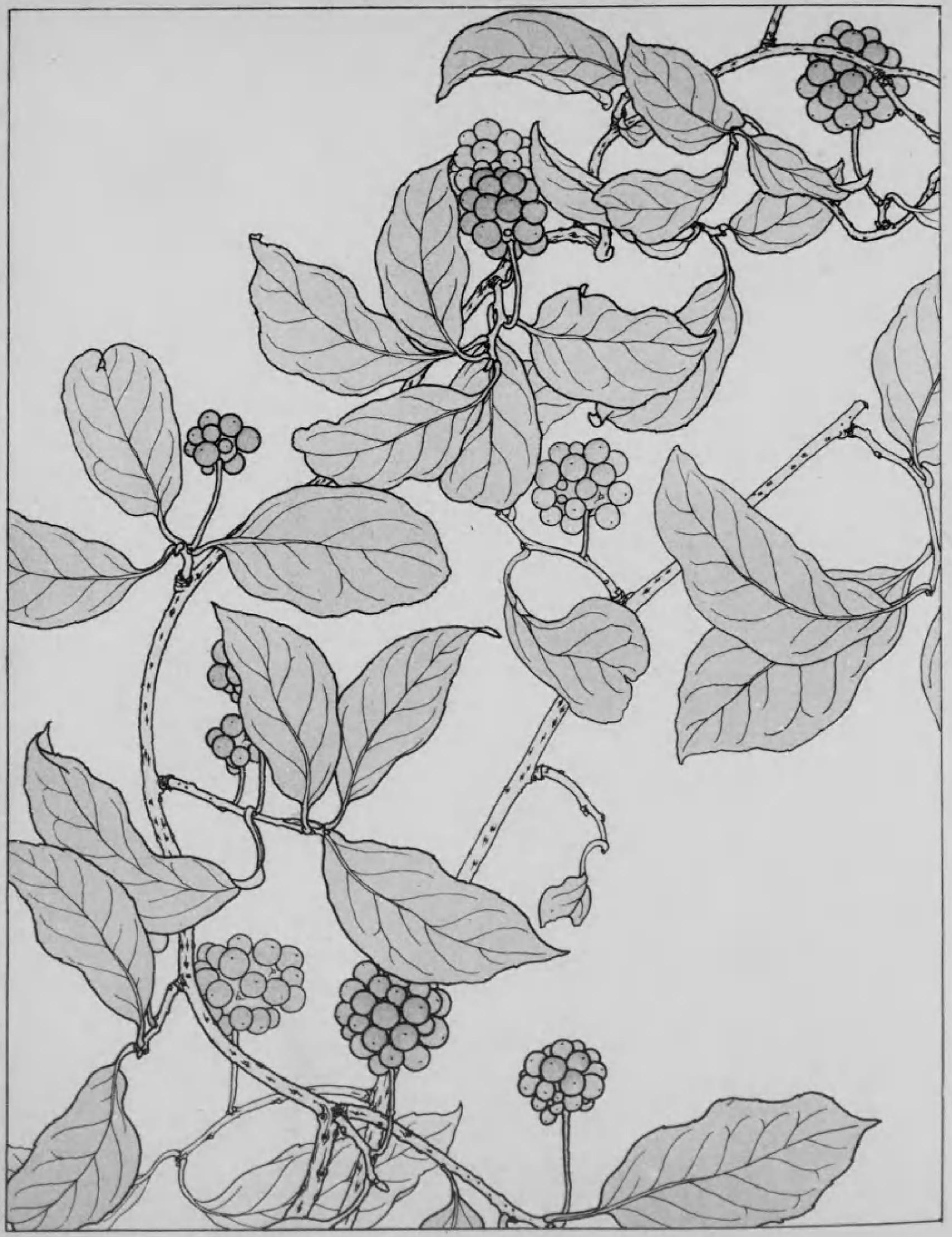
木蘭科

學名 Kadsura japonica, *Dun.*

和名 美男蘿　とろろかづら

漢名 南五味子

本邦山野に自生する木質常綠の蔓生灌木にして、葉は楕圓形銳頭、厚質にして美麗なる光澤有り。七八月の頃、淡黃白色の花を葉腋に著け、花後小球の集合より成れる漿果を結び、熟すれば鮮紅色を呈するを以て、觀賞用として藩籬に纏絡せしめ、又盆養となす。此植物は莖葉に多量の粘液を有するを以て、製紙の糊料となし、或は之を頭髮に塗りて、癖毛を矯正するに用ふ。普通は『びなんかづら』の通稱を以てし、『さねかづら』の稱呼にては、一般に通じ難し。



さざんくわ

山茶科

學名 Thea Sasanqua, *Nois.*

和名 姫椿

漢名 茶梅

本邦暖地の山中及支那に自生する常綠喬木なり、莖高さ一丈許、概形『つばき』に酷似したれども、若き莖に密生毛茸有ると、葉は稍小にして、子房にも密生毛を有するとを異にす。葉は卵形にして先端尖り、葉面平滑にして肉厚し、花は十一二月頃開く、淡紅色六瓣なれども、一瓣は外部に在りて小さきより、宛かも五瓣の如く見ゆ。觀賞用として栽培せらるゝより、園藝上の變品甚だ多く、紅、白、斑入、及び重瓣の品あり。材は建築裝飾用とせられ、種子より搾りたる油は、『つばき』と同じ。

本植物俗に山茶花の字を用ふれども、漢名山茶は我邦の『つばき』なるを以て、混同すべからず。

ざくろ　安石榴科

學名 *Punica Granatum, L.*

和名 石榴

漢名 安石榴　石榴　丹若　金罌

地中海沿岸原産の落葉灌木なれども、古くより我邦に渡來したる植物なり。昔漢の張騫西戎に使したる時、安石國より種子を獲て歸る、故に此名ありと漢書に記されたるを見る。莖高き七八尺乃至一丈餘にして、葉は長橢圓形平滑略々對生をなす。初夏緋紅色の蕚を有する紅色の花を開く。果實は毬形の漿果にして、秋期に及びて熟し、開裂して種子を現はす。其色鮮紅色を通常とすれども、俗水晶實と呼ぶものは、殆んど無色なり。園藝上の變種頗ぶる多く、花に單瓣重瓣、色に白、乳白、淡紅、濃紅、絞、覆輪。木に倭生なる有り、又ねぢ幹と稱して、幹の皺襞を爲してよぢれる如きものあり。種子に酸實と甘實とあり。根皮は煎出して、條虫蛔虫の驅除用として、今尚用ゐらる。

あまりす　石蒜科

學名 *Hippeastrum reticulatum, L.*

和名 あまりす

南米原産の多年生草本にして、通例球根と稱する鱗莖より叢生す。葉長さ二尺許、其發生の半途より、太き花軸を抽きて、百合に似たる大花を、繖形花序に排列す。普通の花期は五六月頃なれども、多くは温室に於て栽培し、早春の裝飾用となす。花色は、紅、朱、淡紅、絞、覆輪等多樣なり。米國バアバンクの改良したるものには、徑一尺の花を開くものありといふ。

此種は普通アマリリスと稱さるゝも、アマリリスは英の俗稱ベラドンナ　リリーにして、本種と同一屬には非ず。本種は英稱ナイツ　スタア　リリーと稱さるゝものなれども、今我邦に於ては、アマリリスの名を以て取扱はるゝに至れり。

あをき　山茱萸科

學名 *Aucuba japonica, Thunb.*

和名 青木　阿乎木波

漢名 桃葉珊瑚

山野の稍陰地に自生する常綠灌木にして、高サ六七尺、觀賞用として栽培せらる。樹皮始めは綠色にして平滑なれども、老いてコルク質に變す。葉は長楕圓形にして尖り、緣邊に鋸齒を有し、長さ五六寸、葉面滑澤にして肉厚し。花は單性にして、枝端に細梗を出し、晩春の候帶紫綠色の四瓣花を開く、雌雄異株なり。果實は楕圓形にして、三月頃紅熟す。園藝的變品として、斑入葉、覆輪葉、白實、更紗實等あり。又『細葉の青木』といふは、其葉狹長にして、藩籬用となすに可なり。往時は此葉を火に焙りて揉軟し、小兒の頭瘡に貼付して、吸出し藥としたる事あり。

てんぢくぼたん　　菊科

學名　*Dahlia valiabilis, Desf.*

和名　天竺牡丹

墨西哥原産の多年生草本にして、甫めて欧洲へ渡りてより、園藝的改良を加へられ、ダリア　コクシネア、ダリア　マアクキー及バリアビリアスより出發して、今日の美花を輩出するに至れり。我邦に輸入せられたるは、德川氏の中世以後にして、當時は『ポンポン』種と稱し、花形棒玉の如き一種のみなりしが、明治年代の末期より、新種と稱するもの續々輸入され、天竺牡丹と言はずして、原名のダアリアを以て通稱するに至れり。コレツト咲、ポンポン咲、カクタス咲、ショウ咲、デコラチーフ咲、ピオニー咲等各品種を出す。莖の高サ五六尺。葉は羽狀複葉にして、卵形の小葉より成る。根は塊狀を成す事甘藷の如く、年々宿存す。六月より十月に亘りて開花し、花は頭狀花序にして、花色形狀多樣を以て著はる。

ゑんどう　荳科

學名 *Pisum, sativum, L.*

和名 豌豆

漢名 豌豆　荷蘭豆

歐洲及亞細亞北部原産の二年生攀登性草本なり。莖高さ五六尺、葉は羽狀複葉にして、各小葉は楕圓形をなし、其上端に於ける二三の小葉は卷鬚に變じ、攀登の用をなす。花は四五月の候に於て、通常紅紫色の蝶形花を開き、二個乃至三四個を各花梗上に著く、紅紫色なるを赤豌豆、白色なるを白豌豆と稱す、通例莢豌豆として食用に供するものは白花の品にして、炒豆に用ゐるは重に紅紫花のものなりとす。挿花用としても栽培せらる。

こおにゆり

百合科

學名 *Lilium Maximowiczii, Rgl.*

和名 小鬼百合　すげゆり

漢名 卷丹（一種）

本邦の山地に自生する多年生草本にして鱗莖なり、高さ三四尺。葉は狹披針形にして互生し、夏月梢頭に二三個の美花を著く、赤黄色にして、暗色の小點を有し、反捲せる六片の花被に、六雄蕊一雌蕊を具ふ。地下の鱗莖は大ならずして圓く、鱗片數甚だ多く其色白し。食用となすべし。此植物は概形『おにゆり』に酷似すれども、決して葉腋に珠芽を生せざるを以て、直ちに識別すべし。觀賞用として栽培せらる。

こぎく

菊科

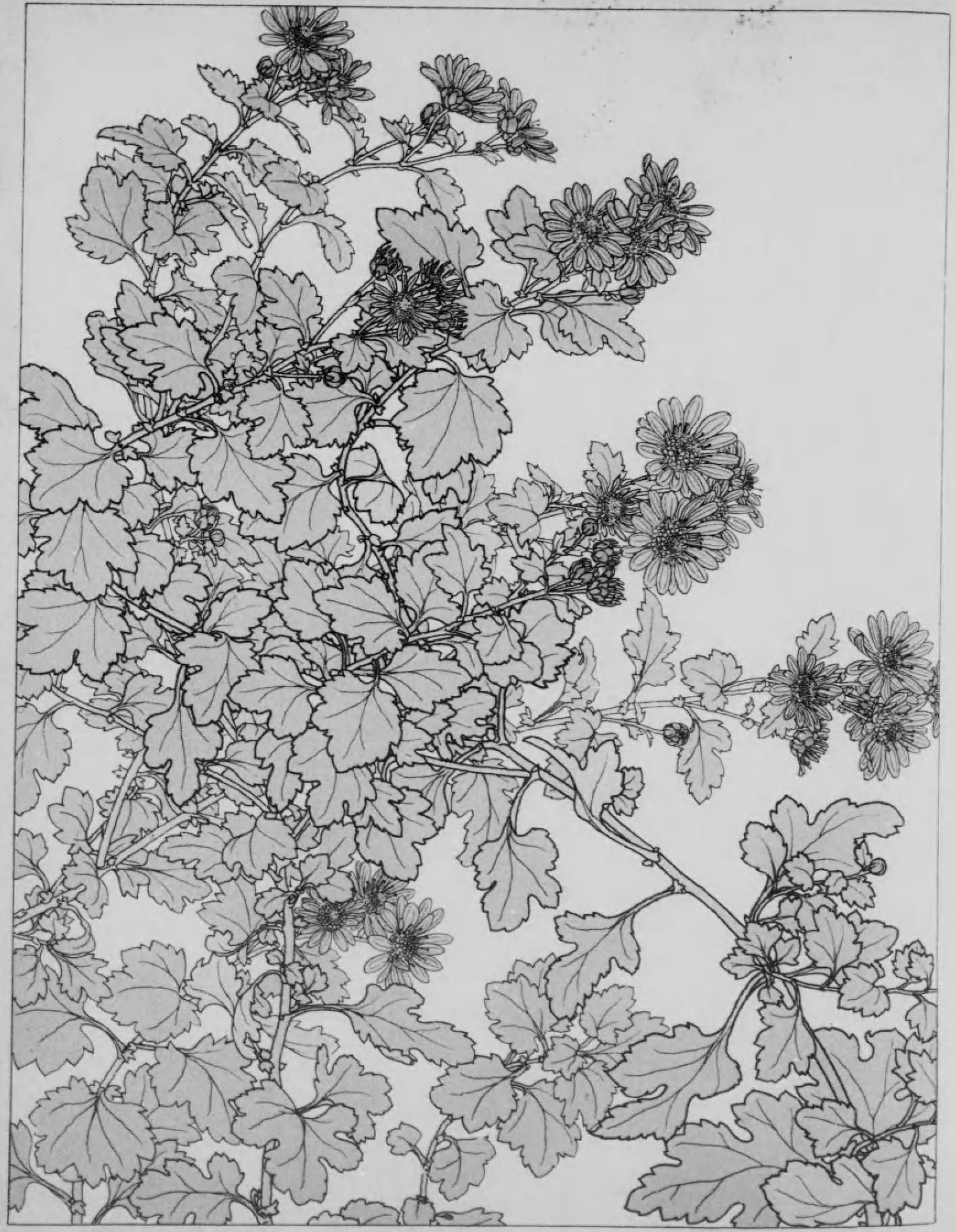
學名 *Chrysanthemum indicum, L.*

和名 小菊 秋しくの花 加波良與茂木 加波良於波岐

漢名 菊

中國九州地方に自生する島寒菊より變化したるものと言ふも其交配紛雜にして、今日栽培家が小菊と總稱する者の凡てが、島寒菊より出でたりとは斷ず可らず。野路菊・龍腦菊等より變化したるもの、又中菊より退化して、更に小輪に栽培せられたるものも有るべし。園藝上の變品幾百種なるを知らず、小菊と呼び、山菊と稱し、偉大壯麗なる懸崖作りとして、優劣を競ふが爲に、年々新品を輩出し、人工反つて天然を壓服するを見る。

多年生草本なれども、莖は稍木質なり。葉は卵形にして深く缺刻し、又鋸齒を有し、葉柄を以て互生す。花は頭狀花序を爲し、花色は千差萬別と言ふべきも、普通は白黃紅等にして、其間色の深淺と、斑入、ぼかし、覆輪、表裏別色等枚擧に遑あらず。本來聚約花なるを以て、一花と見ゆるは、數百花の聚合したるものにて、周圍の花は多く舌狀花冠を呈し、中部の花は筒狀花冠を有す。秋末開花す。其芳香有ると、花期の長きとに於て、秋の花の覇者たり。上記の和名漢名とも、單に此小菊にのみ用ゐらるゝに非ずして、反つて菊全體の稱と知るべし。



ふくじゆさう　　毛茛科

學名 Adonis amurensis, *Regel. et Radd.*
var. ramosa, Makino.

和名 福壽草　元日草

漢名 側金盞花

本邦山地に自生すれども、專ら培養する多年生草本なり。早春發芽と共に黄花を抽出し、漸く成長すれば、高サ尺餘に達す。葉は三五寸にして二回羽狀複葉、小葉は深裂して、裂片又鋭頭なる線狀披針形の小部分をなす。花瓣は倒披針形にして、瘦果は黒色なり。園藝的變種頗ぶる多く、白、紅又は斜子咲などゝ稱する品種ありて、數十種に上る。北海道には枝打福壽草と稱する一變種を野生す。

ふくじゆさう

毛茛科

學名 Adonis amurensis, *Regel. et Radd.* var. ramosa, Makino.

和名 福壽草　元日草

漢名 側金盞花

本邦山地に自生すれども、專ら培養する多年生草本なり。早春發芽と共に黄花を抽出し、漸く成長すれば、高サ尺餘に達す。葉は三五寸にして二回羽狀複葉、小葉は深裂して、裂片又鋭頭なる線狀披針形の小部分をなす。花瓣は倒披針形にして、瘦果は黒色なり。園藝的變種頗ぶる多く、白、紅又は斜子咲などゝ稱する品種ありて、數十種に上る。北海道には枝打福壽草と稱する一變種を野生す。

ふりいじあ　鳶尾科

學名 *Freasia refracta, Klatt.*

亞弗利加喜望峯原產の多年生球根草本にして、觀賞用として明治年代に渡來したるものなり。葉は長さ六七寸、劍狀にして平行脈を有す。春暖の候葉間より花軸を抽出し、白色にして黃暈ある筒狀花を整齊なる穗狀に著く。其芳香あるを以て喜ばれ、溫室に容れて促開せらる。花色に純白、淡黃、紅等の園藝的變品あり。

ふよう(紅花)

錦葵科

學名 *Hibiscus mutabilis, L.*

和名 芙蓉

漢名 木芙蓉

支那原產の落葉亞灌木にして、古來專ら觀賞用として、庭園に栽培せらる。本圖に示す處の紅花の品は其本來の面目にして、秋冷將に加はらんとする時、蕭條たる韻致を掬すべし。花は一日にして謝すれども、數花を連續的に開くを以て、花期頗ぶる長きに亘るものとす。

芙蓉の蕃殖法としては、播種、分蘗等を行へども、秋末其莖幹を切つて、稍濕氣ある砂に埋め、或ひは藁に包みて、溫床に圍ひたるものを、翌年四月頃露地に扦挿する時は、能く活着するものなり。重瓣の醉芙蓉は、此の如き方法を以て蕃殖せらる。

ふよう

錦葵科

學名 *Hibiscus mutabilis, L.*

和名 芙蓉

漢名 木芙蓉

支那原産の落葉亞灌木なれども、鳥媒等によりて、間々野生するものあり。專ら觀賞用として庭園に栽培せられ、初秋の凉味と幽靜とを掬すべし。莖は簇出するの性あり、高さ四五尺短毛茸を有す。葉は掌狀にして淺裂し、葉柄によりて互生す。花は大形にして通常淡紅色、晩夏より初秋に亘りて開く。花後は硬毛を有する毬形の蒴を結び、種子は毛茸を有す。本圖は其白花の品なり。又醉芙蓉と俗稱し、重瓣濃艶の品種あり。

樹皮の纖維より簑を作るといふ。

けふちくたう

夾竹桃科

學名 *Nerium odorum, Soland.*

和名 夾竹桃

漢名 夾竹桃

東印度原産の常綠灌木にして、通常庭園に栽培せらる。莖高さ丈餘。葉は革質靭滑なる長披針形にして、三葉づゝ輪生するを普通とす。夏月炎熱熾くが如き時、鮮紅色の美花を枝梢に著くれども、培養種には帶黃白色のものあり、珍とすべきも美ならず。切花用として、容易に水を揚げさるものなり。此木の嫩莖を切る時は、乳液を滲出す、有毒なりといふ。

けし

罌粟科

學名 *Papaver somniferum, L.*

和名 罌粟　御米色

罌粟は英名ポッピーと稱され、其種類十二種許あり、其内南亞弗利加に一種、濠太利亞に一種、他は歐羅巴及亞弗利加・亞細亞の北部に野生するものにて、本種は希臘及近東地方の原產なり。二年生植物なれども、獨逸種には多年生のものあり。莖高さ三四尺、葉は無柄にして莖を抱きて互生す、長橢圓形にして、縁邊に缺刻及鋸齒を有し、色は淡綠色にして滑なり。花は二個の苞片あれども、開花後直ちに脫落し、花瓣の數は四個なり。五六月の候花を開く。色に白、紅、紫、緋紅、絞り、覆輪等あり。蒴果は壺狀にして、中に無數の種子を藏す。所謂芥子粒なり。未熟の子室より乳白色の液汁を採り、以て阿片、モルヒネを製す。嫩苗は煠でゝ食すべく、種子は菓子の香料として用ひ、或は油を搾りて、藥用、又は油畫用、及び石鹼の製造用とす

『おにげし』は亞米利加の原產にして、莖に粗毛を有し、花深紅色にして大なり。之を『イギリス牡丹』と稱す。『ひなげし』は所謂虞美人草にして、莖葉共に纎小なり。漢土にては項羽の妃虞姬の墓邊より咲き出たりとて、此字を充つ。英國の原野に野生多し。

マツムシサウ

山蘿蔔科

學名 *Scabiosa japonica, Miq.*

和名 りんほうぎく（輪峯菊）

漢名 山蘿蔔

本邦の山野殊に裙野に於て多く自生する二年生草本なり。莖高サ二尺左右、葉は羽狀に分裂し細毛を有す。花は花軸の頂頭に生じ、藍紫色、其外圍のものは、大形にして不齊稍唇形をなし、内部のものは整齊にして稍小形の筒狀をなし、色も又淡く、八九月頃開花す。果實は叢生して半球狀を呈し、紫色の刺毛あり。觀賞用として栽培する事あれども、今日庭園に見るものは、多く洋種なりとす。嫩葉を採りて茹でゝ食し、又は飯に和して食する事あり。

まゝこな　　玄參科

學名 Melampyrum roseum, *Maxim.* var. japonicum, *Maxim.*

和名 繼子菜

林野の陽地に多く自生する一年生草本にして、莖の高さ一二尺、枝葉双つながら對生し、葉は長卵形にして先端尖り、稍粗糙なり。夏日枝梢上に花軸を抽出し、小葉鱗次して、毎腋紅紫色の唇形花一個宛を、片側穗狀花序に排列す。

此草の嫩時を茹でゝ食用に供し得と言ふ、又此同属に『みやままゝこな――深山繼子菜』あり、莖葉共に小にして、盆養として觀賞するに足る。

やへさくら　薔薇科

學名 Prunus pseudo-cerasus, *Lindl.*
var. serrulata, Makino.

和名 八重櫻

本種は本邦の名花たる『やまざくら』より出でたる園藝的變種にして、一般に葉は花後に萌出するを例とす。四月中旬より下旬に亘り、普通の單瓣櫻の散りたる後に開花す、花蕾大きく、重瓣にして、花梗に毛を生せず。花色は白、紅、靑黄色、重瓣なり。

總稱して八重櫻といへども、品種頗ふる多く、楊貴妃、普賢象、車返し、大提灯、鬱金、淺黄、江戸櫻等百餘種に及ぶ。普通山櫻染井吉野等の單瓣種は、一時に咲き一時に散るの特徴あれども、八重櫻は其散り際の稍潔よからざるを憾みとす。

やまあざみ　菊科

學名 *Cirsium incomptum, Maxim.*

和名 山薊　鬼薊

漢名 大薊

山野に自生する多年生草本なり。莖高五六尺に達す。葉は長橢圓形の深裂羽狀をなし、質勁剛にして、葉緣の刺頗ぶる尖銳なり。八九月の候紫紅色の頭狀花を開く。總苞は短き鐘狀をなし、各總狀片は狹長にして、稍反曲す。其『のあざみ』と異る點は、總苞上に粘質物無き事なり。

やぶかうじ

紫金牛科

學名 *Ardisia japonica, Bl.*

和名 藪柑子　やまたちばな　やぶたちばな

漢名 紫金牛

本邦山野の比較的陰地に自生する常緑の小灌木にて、紫金牛科の代表植物なり。高サ四五寸より一尺に達し、葉は互生、肉厚く、長楕圓形にして、緣邊に細かき鋸歯を有す。帯緑白色の合瓣花は、通常二個づゝ集生し、夏月葉腋より咲き出づ。果實は毬形にして多季紅熟す。其色美なるを以て、觀賞用として、盆栽の下草とされ、又茶庭などに植ゑらる。其園藝品には、變葉のもの、又は白色の果實を結ぶものあり。

普通花戸が『かうじ』と稱して、甚だしき流行を促したりしものは、同屬の『からたちばな──百兩金』にして、此種とは似て非なるものなり。

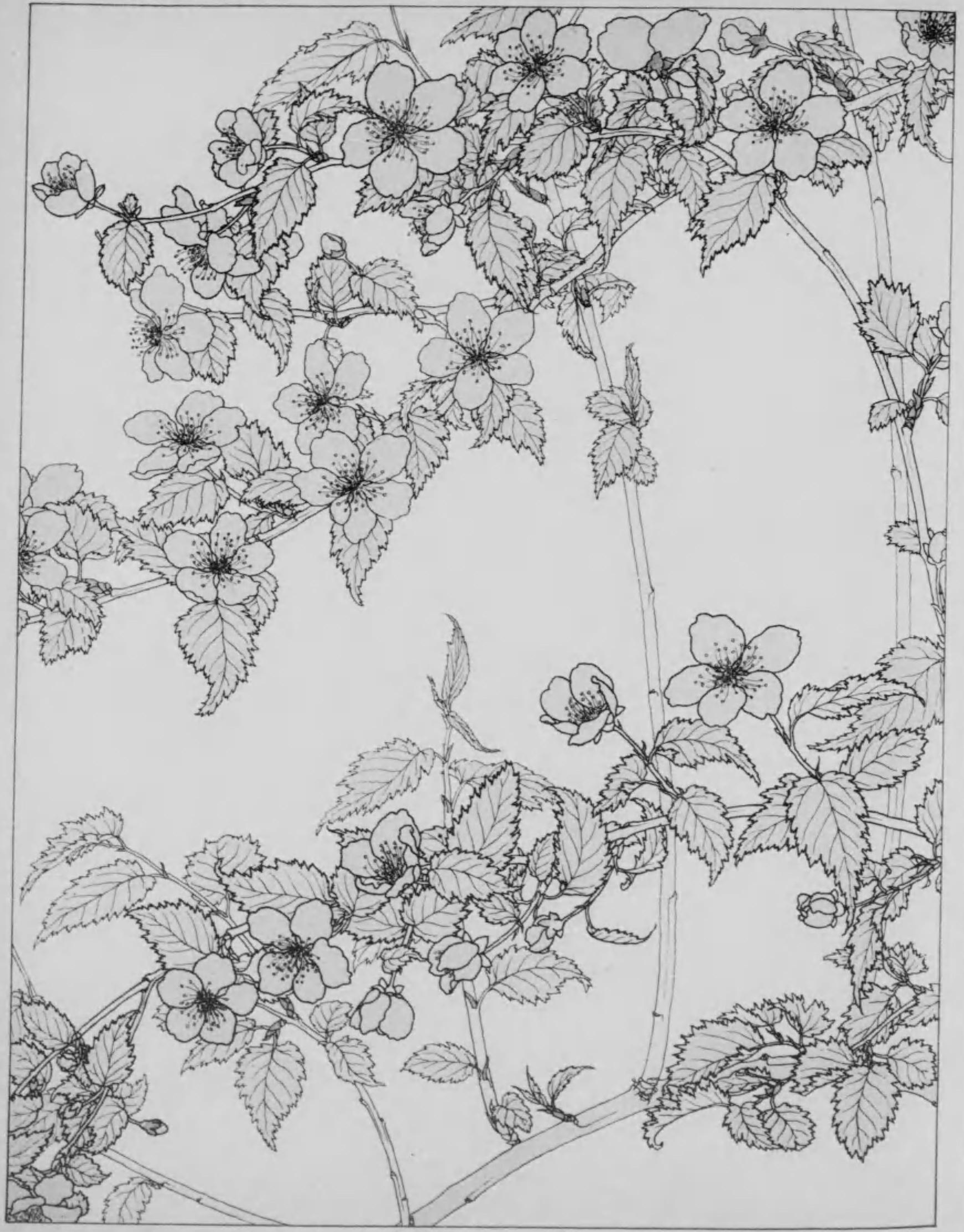
やまぶき　薔薇科

學名 *Kerria japonica, DC.*

和名 山吹

漢名 棣棠花

本邦各地に自生する落葉亞灌木にして簇生すれども、又庭園に移して、觀賞用として培養す。莖高さ五六尺、葉は卵形又は長卵形にして、鋸齒を有し、先端尖りて互生す。春日綠色の新條より黃色五瓣の花を生ず、此種の重瓣なるを八重山吹と稱す。山吹は古來禁中にて甚だ推賞せられたるものにて、花山吹、裏山吹、青山吹等の衣あり。漢土にては單瓣なるを金盌喜水と言ひ、重瓣なるを御帶花地棠花と呼ぶ。我邦の異名としては、面影草、かゞみ草、いとはず草等あり。坊傳山吹は結實せずといふは誤りなり。



くさけふちくたう　花葱科

學名　*Phlox paniculata, L.*

和名　草夾竹桃　日々草　華魁草

北米原產の多年生草本にして、古くより觀賞用として栽培せらる。莖高さ三乃至五尺、長楕圓形又は卵狀披針形の葉を對生し、八九月の候、筒狀五裂の花を、廣圓錐花序に排列す。普通は紅紫色なれども、鮮紅、純白、中心紅色にして、緣邊白暈を有する等、各種の色彩を有するものあり。

此種は屬名フロックスなれども、今我邦にて通常フロックスと俗稱するは、一年生草本たるフロックス　ドラモンヂーにして、其變品の多き事枚擧し難し。

茜草科

くちなし(果實)

學名 *Gardenia florida, L.*

漢名 梔子　黃梔花

本圖は『くちなし』の果實を特に描出したるものなり。花後其外皮の綠色なるもの、秋末に至りて漸く黃熟し、終に黃褐色を呈するに至る。楕圓形にして五六の縱稜あり、挿花用として觀賞せらるゝ外、食料の染色に用ゐらる。坊間花見慈姑と稱し、黃色の慈姑を花下に賣るものは、皆此果實を浸出して染色したるものなり。其外工藝用にも色素として用ゐられ、又藥用としては、下熱淸血に効有りといふ。

くちなし

茜草科

學名 *Gardenia florida, L.*

漢名 梔子　黄梔花

本邦の暖地に自生する常緑灌木にして、高さ一丈餘に達す。葉は光澤ある橢圓形全邊にして對生し、花冠は大形六片、各片稍回旋狀に排列す。白色にして芳香あり、脫落前には赭黄色に褪變す。花期は七月。專ら觀賞用として庭園に栽培す。同屬にヤヘクチナシ、マルバノクチナシ、コクチナシ等あり。近時舶載せられたる西洋梔子なるものは、重瓣にして花冠大に、芳香辣烈なるを喜ばれ、溫室裡に映かしめて、挿花用に供せらる。

くまささ

禾本科

學名 Sasa-albo-marginota, Mak.

和名 熊笹 燒場笹 山笹 粽笹

漢名 箬竹 山白竹

山林中に自生し、又庭園に栽培せらるゝ多年生植物にして、高サ大概二三尺、時に四五尺に及ぶもの有り、葉の大なるものは、五寸乃至七八寸に達す、其新葉は葉邊に白暈を生ずる事無けれども、老ゆれば白褐色の覆輪を呈し、通常花を生せず。此一種に『こくまざさ』と稱するもの有り、專ら庭園の裝飾とせらる。此外概形熊笹に似て非なるもの多し。市井の鮓屋にて裝飾として用ゐるが爲に、特に此葉のみを鬻いで生計とする者有るにいたる。

うめ　薔薇科

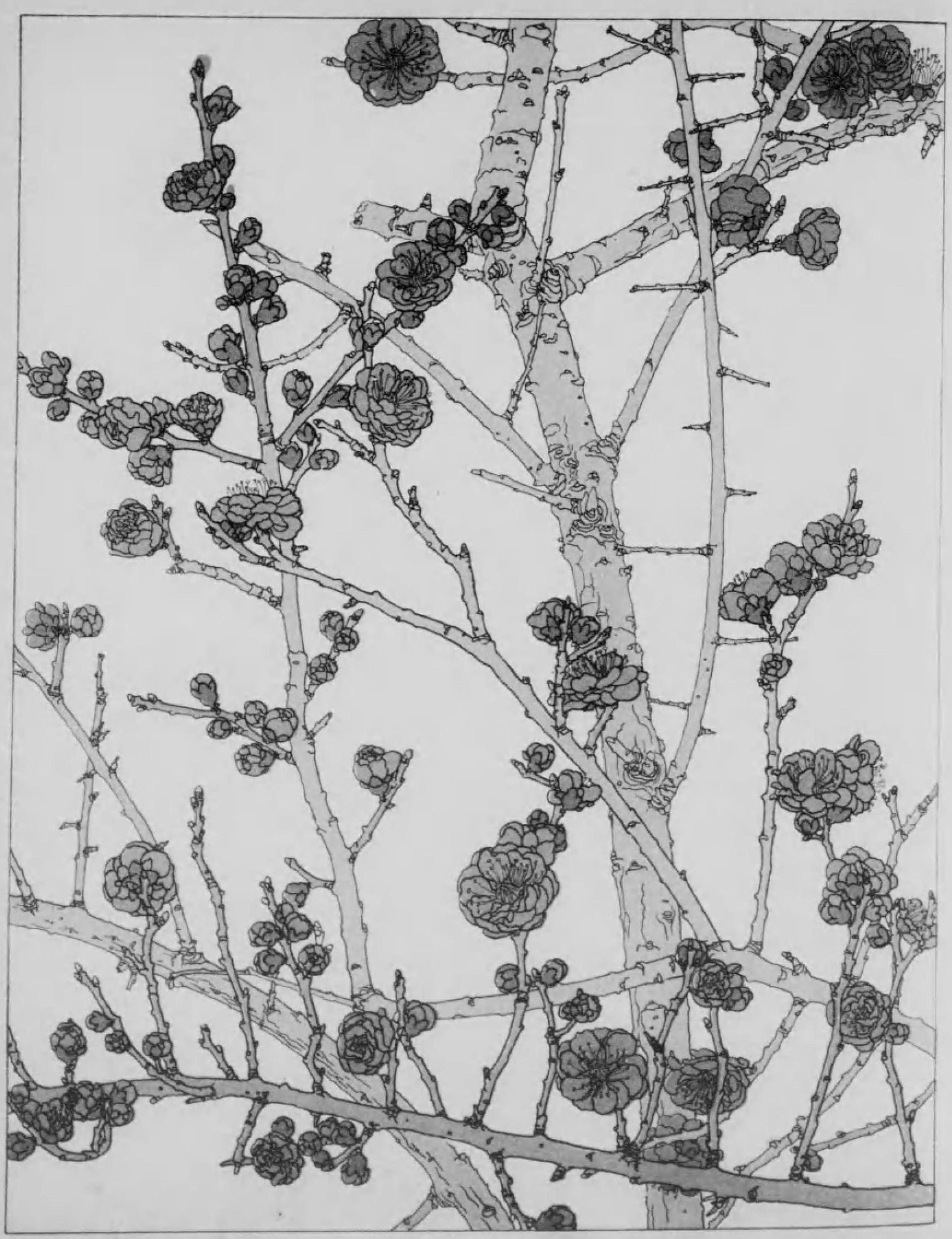
學名 *Prunus Mume, S. et Z.*

和名 梅　花の兄

漢名 梅　好文木

支那原産の落葉灌木にして、應仁天皇の朝乃至以前に我邦に舶載し、廣く栽培せられたるが爲に、間々原野に自生するに至る。莖高さ三丈に達し、早春葉に先だちて香氣ある五瓣の花を開く、花瓣は單瓣なると重瓣なると有り、色に紅白及其間色と有り。葉は卵形にして尖り、鋸齒を有す。果實は核果にして五六月の候に熟するを以て、五月の雨期を梅雨と稱す。今日各所に在る梅林は、重に子實を採取する爲に栽培せられたるものなり。梅の品種は頗ぶる多く、アヲジク、アンズウメ、ブンゴウメ、ハナザロン、ハヤザキ、コウバイ、マコウバイ、ミザロンモチウメ、ヤバイ、サカサウメ、スズナリ其他百數十種に上る。本圖は紅梅種にして、ミチシルベの系統なり。

宮中紫震殿に櫻を植ゑて、左近の櫻と稱すれども、昔は梅を用ゐたる事記錄に明らかなり。



むらさきつゆくさ

鴨跖草科

學名 *Tradescantia virginica, L.*

和名 紫露草

北亞米利加原產の多年生草本なれども、寒地にては、一年にして枯死する事あり。觀賞用として栽培せらる。英名にては、スパイダア　プラントと呼ばる。蓋し其花の形が、外人には蜘蛛の如く見ゆるによるか。莖高さ二尺餘、長き線狀平行脈葉を互生し、晩春より初夏に亘りて、莖頭に濃藍色の花を繖形花序に漸開す。六本の雄蕋は、其花糸に多數の毛を有し、其毛は細胞の一列より成りて、原形質運動、細胞核の分裂等の研究に好材料とせらる。挿花としては、頗ぶる水揚の困難なるものなり。

なし　　薔薇科

學名 *Pirus sinensis, Lindl.*

和名 梨

漢名 梨

廣く栽培せらるゝ落葉喬木にして、現時は山地に自生するものを見せざれども、本邦北方の深山に在りといふ說あり。普通は果實を採取する爲に栽培せらる。葉は卵形にして尖り、緣邊に纖細なる鋸齒あり。花は白色五瓣にして、四月より五月に亘つて開く。果實は秋期に於て成熟し、中に十箇の種子を藏するを普通とす。往時は多漿なる淡雪種を尊びたれども、今日は各種の新種を簇出し、產額頗る多し。花は其爛漫の壯麗を賞すべきに非ずて、反つて春雨烟るが如き時に於て情あり。白樂天の長恨歌に、梨花一枝春帶雨と言ひたるも、梨花の眞面目を道破したるものといふべし。

なんてん

小蘗科

學名 *Nandina domestica, Thunb.*

和名 南天

漢名 南天竹　南燭

我邦の南部暖地及支那に自生すれども、專ら庭園に栽培せらるゝ常綠灌木なり。莖高さ四五尺を常とすれども、時に丈餘に達するもの有りて簇生する性質を帶ぶ。葉は披針形の小葉より成る數回羽狀複葉にして、葉柄の基脚は莖を包む。花軸は幹の上部より生じ、初夏の候白色五瓣の小花を、複總狀花序に綴る。果實は毬形にして豌豆大、冬月紅熟す。此種は園藝上の變品甚だ多く、本圖に示せる果實の白きものは、俗に白南天と稱せらる。又花の紅きもの有り、小葉の著じるしく彎曲拗捩せるものは、花戸錦絲南天と呼ぶ。

花は觀賞せられざれども、果實は盛んに賞美せらるゝを以て、冬季殊に新春の切花用として培養せられ、其葉は慶事赤飯を配る時に、器底又は飯上に置かる。稀に幹の大なるものは床柱となり、小器具を造る。往時は强壯劑として用ゐられたる事あり。

なつはまぎく

菊科

學名 *Chrysanthemum Makinum, Makino.*

和名 夏濱菊

舶來の觀賞植物にして、多年生草本なり。歐米の俗稱チャスタア デージーを以て通す。本邦の濱菊に酷似し、花期遙かに早きを以て、夏濱菊の新稱を得たり。五六月の候より開花す。莖は稍灌木狀を呈し、暖地に在りては、冬季枯槁せずして、老皂畸怪の狀を呈するを以て、盆栽として眺矚すべし。園養のものは莖高さ二三尺。葉は長披針形にして、緣邊に疎鋸齒を有す。花は大形白色の頭狀花にして、外圍の花は舌狀花冠、內層のものは筒狀花冠を具ふ。秋末播種する時は、坐葉の儘越年し、翌年直ちに花を著く。揷花用として栽培する者、近時漸く多きを加へたり。